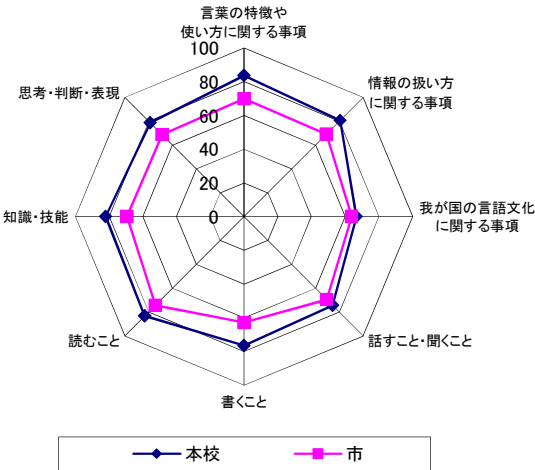


宇都宮市立中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	83.7	69.9	72.3
	情報の扱い方にに関する事項	80.8	69.2	73.0
	我が国の言語文化にに関する事項	66.7	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	74.4	69.5	71.5
	書くこと	76.5	62.8	67.1
	読むこと	83.3	74.4	73.7
観点別	知識・技能	82.1	69.4	71.9
	思考・判断・表現	78.8	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

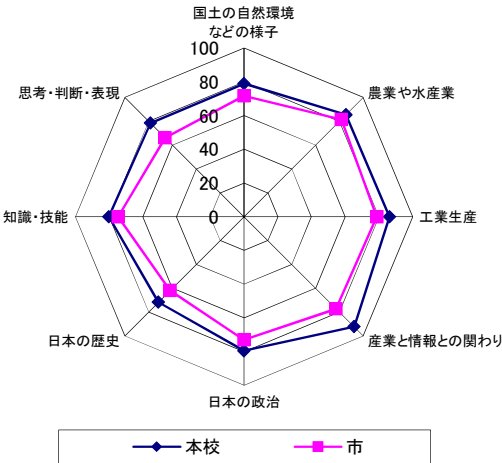
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方にに関する事項	○市の平均正答率を13.8ポイントと大きく上回っており、とてもよくできている。特に敬語については、正答率が100ポイントでよく理解できている。 ●その中でも正答率が低かったのは「肥料」「設ける」の書き取りと、文と文との接続の関係の理解であるが、どちらも約7割の児童ができていた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の書き取りについては、繰り返し復習させることでさらなる定着を図っていく。 ・文と文との接続の関係の理解については、家庭学習での音読練習や読書活動に次年度は力を入れていきたい。
情報の扱い方 にに関する事項	○市の平均正答率を11.6ポイント上回っており、よくできている。 ●情報と情報の関係について理解し、目的に応じて文章を書く問題では、市の正答率より12.1ポイント上回っているが、66.7ポイントと低い。	・引き続き、情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理したり、目的に応じて文章を書いたりすることにより、思考力や表現力を育てていきたい。
我が国の言語文化 にに関する事項	○市の平均正答率を少しではあるが、2.9ポイント上回っている。 ●領域別正答率66.7ポイントは、全6領域の中で最も低い。漢語、和語、外来語についての問題が出題された。	・漢語、和語、外来語については、5学年で、由来やその区別について学習している。継続的に復習させ、語句の由来に関心をもったり、和語、漢語、外来語について理解したりできるようにしたい。
話すこと・聞くこと	○市の平均正答率を4.9ポイント上回っている。特に、インタビューの放送を聞いて、工夫していることを選ぶ問題では、10.7ポイント上回っている。 ●話の内容を捉える問題では、市の平均正答率よりは0.7ポイント上回っているものの、全国正答率よりは2.8ポイント低かった。	・相手の話を聞いて内容を的確に捉えることは、授業中だけでなく日常生活の中でも大切なことである。普段から、相手の話を最後までよく聞く習慣付けを図っていく。
書くこと	○市の平均正答率を13.7ポイントと大きく上回っている。どの問題もすべて市の平均正答率を大きく上回っており、とてもよくできている。 ●予想される反論とそれに対する自分の意見を書く問題では、正答率が53.8ポイントで、全26問の中で最も低かった。	・引き続き、自分の考えを明確に書く活動を継続して行っていくとともに、様々な条件に対応して書く力を育てていきたい。 ・国語の学習だけでなく、他の教科の学習でも、資料から読み取ったことなどを書く活動を取り入れ、書く力のさらなる育成を図っていく。
読むこと	○市の平均正答率を8.9ポイント上回っている。特に、情報と情報との関係を理解し、文章の情報を整理する問題では、94.9ポイントと最も高かった。 ●物語の読み取りと説明文の読み取りを比べると、全体的に説明文の方が正答率が低い。	・段落や文章全体の構成を考えながら読むことを意識させ、説明文の内容を理解する力を伸ばしていく。 ・引き続き、朝の読書の時間を確保や、教材文と同じジャンルや内容、構成の本を読むなど、物語や説明文を含めて多様な文章に触れる機会を設定していく。

宇都宮市立中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	79.0	71.6	67.5
	農業や水産業	85.5	81.5	82.1
	工業生産	86.3	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	92.3	77.2	68.2
	日本の政治	79.5	73.1	77.9
	日本の歴史	71.8	62.0	65.8
観点別	知識・技能	80.2	74.6	74.5
	思考・判断・表現	78.5	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

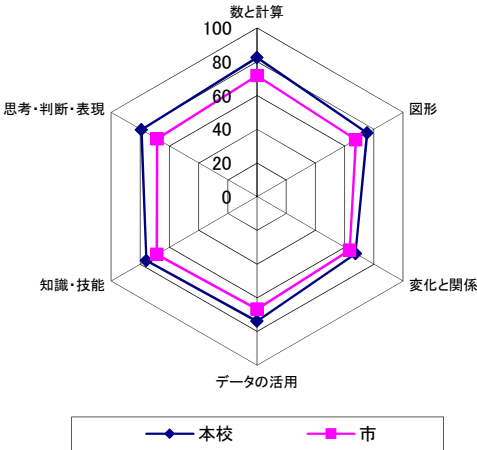
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○市の平均正答率を7.4ポイント上回っている。特に、「日本の周辺の海洋名について理解している」の問題は94.9%で、市を9.2ポイント上回っていた。 ●「日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに、地図を読み取っている」の問題は、市が37.1%、本校が51.3%と低い正答率であった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・市を上回り80%に近い正答率であったが、今後も授業中に地図帳に触れる機会を増やし、国土の広がりや山脈、河川等への興味・関心が高まるよう指導していく。
農業や水産業	○市の平均正答率を4ポイント上回っている。特に、「カントリーエレベーターについて理解している」の問題は、正答率が89.7%と高い正答率であった。	・地産地消の取組の問題は79.9%で市の82.5%を若干下回っていたので、安定した食料確保には地産地消が重要であることを再認識させたい。
工業生産	○市の平均正答率を7.6ポイント上回っている。特に、「自動車工場の作業について理解している」の問題は、97.4%と高い正答率であった。	・記述式の問題では、自動車の輸送手段であるキャリアカーと船舶との輸送量の違いを記入することができず、76.9%の正答率で他の問題より若干正答率が低かった。出荷の工夫について理解を深め、言葉で表現できるように指導していく。
産業と情報との関わり	○市の平均正答率を15.1ポイント大きく上回っている。特に、「メディアの特徴を理解している」の問題は、100%の正答率であった。さらに、コンビニエンスストアの発注システムについての問題も84.6%の正答率で、市を21.8ポイント上回っていた。	・今後も情報化社会の仕組みや生活の中で情報がどのように生かされているか考え、様々な情報から正しい情報の選択と、上手な活用の仕方が大切であることを指導していく。
日本の政治	○市の平均正答率を6.4ポイント上回っている。特に、税金の問題では、市の正答率より11.5ポイント高い92.3%の高い正答率であった。	・「図に着目して、国民による政治のしくみを判断している」の問題では、市を大きく上回っているものの64.1%であったので、今後も政治に関する情報を、朝の会や帰りの会等で話題にし、日常生活においても政治に興味・関心がもてるよう指導していく。
日本の歴史	○市の平均正答率を9.8ポイント上回っている。特に、「大和朝廷について理解している」の問題では、市より22.5ポイント高い87.2%であった。 ●奈良時代の出来事の問題では、記述式ということもあり、市を上回ったものの48.7%と低い正答率であった。	・これからもデジタル教科書やインターネット等を活用して課題解決に取り組み、さらに年表を活用しながら各時代の中心人物や出来事について整理するなど、指導の手立てを工夫していきたい。また、記述式の問題にも慣れるよう、日頃から自分の考えや分かったことを短文にまとめる指導に努める。

宇都宮市立中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	82.5	71.8	76.2
	図形	75.4	67.7	67.8
	変化と関係	67.5	63.4	62.7
	データの活用	73.9	66.7	61.5
観点別	知識・技能	75.8	68.6	70.7
	思考・判断・表現	79.2	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

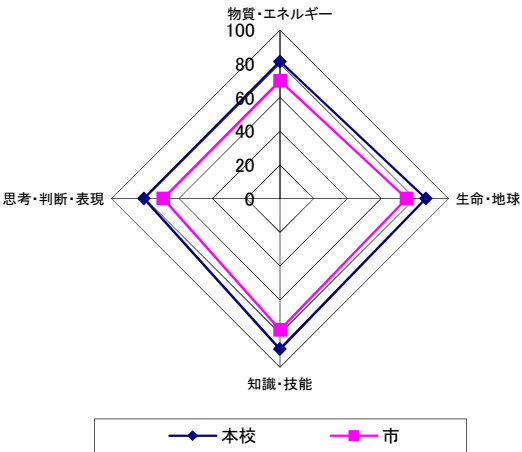
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、市を10.7ポイント上回っており、数と計算の領域においては、全ての問題で市の平均正答率を上回った。特に小数の計算では、図を見て小数倍の文章問題を立式する問題が市より15ポイント以上上回っていた。 ●分数の割り算の文章問題に合った図を選ぶ問題の正答率が69.2%、式を選ぶ問題が51.3%と、市の平均正答率こそ上回ったものの、他の問題と比べると正答率が低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・分数、小数の基本的な乗除の計算はよくできているため、立式に至るまでの過程を数直線や図、言葉で表現できるよう類似問題や文章問題にも取り組むことで定着を図る。
図形	○平均正答率は、市を7.7ポイント上回った。三角形の外角を求める問題では18.4ポイント、正五角形の作図方法から中心角を求める問題では11.6ポイントと、角度を求める問題で高い力を発揮していた。 ●点対称な図形の対応する辺を求める問題が、10.4ポイント、線対称な図形の対称の軸の本数を求める問題が3.4ポイント下回った。	・タブレットを活用し、図形を回転させたり、移動させたりしたりする活動を取り入れることで、視覚的に対称な図形の関係をとらえられるようにする。
変化と関係	○平均正答率は、市を4.1ポイント上回った。特に速さの単位を理解し、時速を秒速や分速に直す問題では、9.4ポイント上回った。 ●比較量と基準量から、割合を求める問題が4.3ポイント下回った。	・割合を求める公式は理解できているが、問題文から比較量と基準量を判断することに課題があるので、時間をかけて復習していきたい。 ・2～5年生の算数で数直線を扱う単元を学習する際は、教科書等を参考にして自分で書く場面を増やし、図をもとに考える習慣の確立を図る。
データの活用	○平均正答率は、7.2ポイント上回った。特に、帯グラフから必要な情報を選ぶ問題では12.1ポイント、帯グラフを読み取って説明する問題では、19.3ポイント上回り、よくできていた。 ●ドットプロットから、中央値を読み取る問題の正答率が59%と、市の平均正答率こそ上回ったものの、他の問題と比べると正答率が低かった。	・日常生活でデータを見る機会が少ないため、国語や社会、新聞・ニュースなどで扱っているデータに触れながら、復習できるようにしていきたい。 ・統計の分野は新学習指導要領施行に伴い、中学1年から移行してきた学習内容であり、教職員も指導経験が少ないことから、校内でも指導法について研修・研究していきたい。

宇都宮市立中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	81.3	69.9	67.8
	生命・地球	86.5	75.1	73.7
観点別	知識・技能	89.3	77.8	78.4
	思考・判断・表現	80.8	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○平均正答率は、市より11.4ポイント上回った。「ふりこのきまり」「電流のはたらき」「水溶液の性質」では、すべて市より上回っていて良好な結果が得られている。 ●「物のとけ方」のメスシリンダーの目盛りの読み方について市より0.9ポイント下回っていて器具の扱い方がまだ十分でなかった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験では、なるべく全員が実験器具に触れ、操作できるようにしていきたい。 ・基礎的基本的内容が定着するよう、繰り返し操作したりプリントで確かめたりしていきたい。
生命・地球	○平均正答率は、市より11.4ポイント上回った。「植物の発芽と成長」「動物のからだのつくりとはたらき」「植物のつくりとはたらき」「生物と環境」「月と太陽」すべて市より上回っていて良好な結果が得られている。 ●市の正答率は上回っているが、実験・観察結果から部屋の換気の頻度を分析したり月の観測時刻を推測したりすることの正答率は60%台と低かった。	・学習内容が生活の中でどのように生かされるか、単元のまとめの時に考える時間を確保していきたい。 ・実験結果からの考察にもう少し時間をかけ、結果から分かること・考えられることを話し合っていきたい。

宇都宮市立中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習意欲を高める課題設定の工夫	・児童が「知りたい」「解決したい」という探究的要求をもてるような「課題」の設定や提示の工夫をしている。	・「勉強が好きか」という問いの肯定割合がほとんどの学年で市の肯定割合を上回った。しかし、学年が上がるにつれて、肯定割合が小さくなっていった。 ・「学習していて、おもしろい、楽しいとおもうことがある」という質問の肯定回答は4学年で平均並みか、それ以上である。
主体的・対話的で深い学びを実現するための指導法の工夫	・対話的な学び合いのために学習展開を工夫している。 ・思考力・判断力・表現力を育成するために学習活動を工夫している。 ・学びの深まりを自覚する振り返り活動の工夫をしている。	・「グループでの話し合いに自分から進んで参加していますか」の肯定割合は、市の平均と比べると、ほとんどの学年で平均並みか、平均を上回っている。 ・3年生以上の「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている」の問いについての肯定割合はほとんどの学年で市の肯定的割合を上回っている。
基礎的・基本的な学習内容の定着のための工夫	・ねらいを明確にし、分かる授業を展開している。 ・担任と担任以外の教員による朝の学習支援を行ったり、定期的にステップアップテストを実施したりして、学習内容の定着を図っている。	(6年生の調査から) ・4教科の基礎問題では、どの教科も市の平均を5ポイント以上上回った。 ・国語では言葉や言語について、算数では、図形や割合の問題で正答率がやや低くなっていた。
家庭学習の充実と習慣化のための指導の工夫	・全学年「家庭学習マイプラン」を活用し、毎日の家庭学習の内容や時間を記録させ、自主的に家庭学習に取り組む習慣をつけている。 ・学校が休みの日に「家読」を行い、家庭での読書習慣の定着を目指している。	・宿題の提出に関する問いの肯定割合は、市と比べるとほとんどの学年で平均並みか平均を上回っている。 ・「家で本や新聞を読んでいる」の質問では、2学年で市の肯定割合を上回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

- ・学習に対する取組について、児童の学習意欲について課題が見られる。成功体験を充実させて自己肯定感を高めるとともに、学んだことを使えば「解決できる」と思えるような課題を設定したり、「解決したい」と思えるような課題提示の仕方を工夫したりして、学習意欲が高めるようにしていく。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現や個に応じた指導法・指導体制の工夫においては、タブレットの活用を精選しながら、一人一人が発信し、全体で考えを深められるよう、さらに効果的な話し合いの方法を考えていく。
- ・基礎的・基本的な学習内容の定着のために、朝の学習の時間をより効果的な時間となるよう取組を見直していく。また、漢字、計算だけでなく、言語や図形の指導の充実を図る。
- ・家庭学習の充実と習慣化のために「進んで学習している」と感じられるよう、家庭の協力を得ながら、宿題だけでなく、自主学習を含めた家庭学習のやり方の指導を充実させる。
- ・「家読」の時間を今年度より多く設定しすることで、家庭での読書の習慣化を図る。